

安全最優先

1 | 2025年度の活動

基本方針

今般、「デンカグループ労働安全衛生ポリシー」を制定し、全社の基本方針を見直しました。(2025年4月)また、デンカグループの全役職員等が、労働安全衛生を確保するため遵守すべき行動指針も定め、サステナビリティサイトで公表しております。

[基本方針]

デンカグループでは、全役職員等*の一人ひとりが、職場の安全衛生と設備の保安防災が全ての生産に係る活動において最優先であることを理解し、実践する。

*全役職員等:デンカグループの全役員・従業員・派遣社員・業務受託者およびその従業員

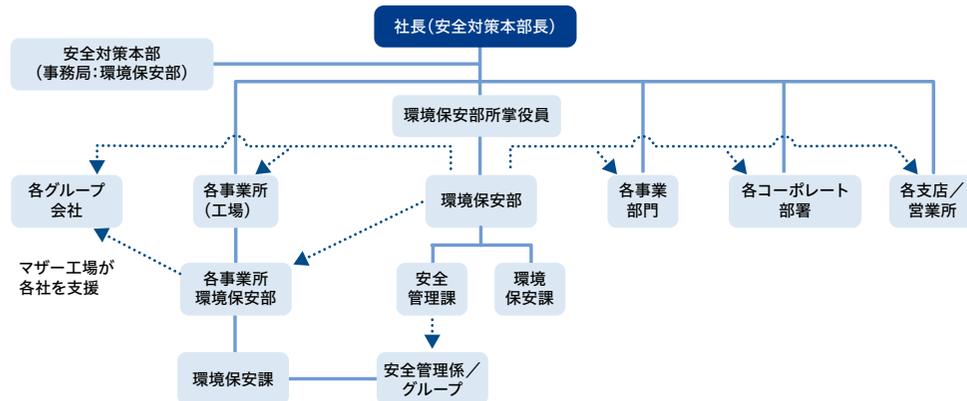
2 | 経営計画「Mission2030」目標達成のための戦略

2030年までに労働災害率0.2以下、重大事故ゼロを達成するため、下記を計画的に取り組みます。

①安全管理のマネジメント体制

社長を安全対策本部長とする安全対策本部を設置し、事務局である環境保安部に安全管理の専門要員を配置してグループ全体の安全管理状況を監査・確認・支援する体制としています。

また、国内外グループ会社に対してきめ細かな支援を行うためマザー工場制度を設け、マザー工場の環境保安部が各社を往訪し、安全管理上の課題解決に当たっています。



②安全管理の年度計画

今年度のデンカグループ全体の計画として、KPIである労働災害率0.2以下、重大事故ゼロ達成に向けた個別の取り組みと、その基盤となる「あるべき姿」を目指した取り組みを設定し、具体的なスケジュールに落とし込んでいます。

2025年度 デンカグループ 安全衛生管理計画

1. 労働災害率0.2以下に向けた取り組み

- 1-1. 行動災害防止のため、全社ノンテクニカルスキル向上の取り組み、及び事業所の課題に即した対策の推進
- 1-2. 各事業所で休業災害の減少/未然防止に有効な活動への注力
- 1-3. 体系的な事業所内巡視、及びコーポレート監査所見に基づく継続的改善

2. 重大事故ゼロ達成に向けた取り組み

- 2-1. リスクアセスメントガイドラインへの準拠の確認と、高エネルギーハザードに絞った事故防止対策の実施
- 2-2. 保安リスク低減のためのプロセスリスクアセスメント及び教育計画の策定と実行

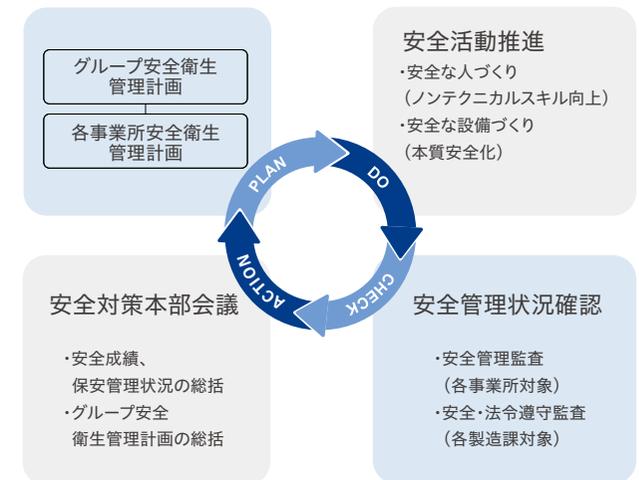
3. あるべき姿の確立と実現に向けた取り組み

- 3-1. 有効性が低い活動の断捨離と、取り組むべき活動の徹底的な実行
- 3-2. グループ共通ルールの策定と、施策の推進
- 3-3. 安全管理に係るデジタル/DX化方針の策定と、事業所での運用推進

③安全管理のPDCA

グループ全体の年度安全衛生管理計画に基づき、各事業所でこれに沿った年間計画を作成、各種安全活動を推進しています。

安全管理監査で活動状況を確認し、安全対策本部会議でレビューし、次年度の安全衛生管理計画に反映することで、安全管理をスパイラルアップさせる仕組みとしています。

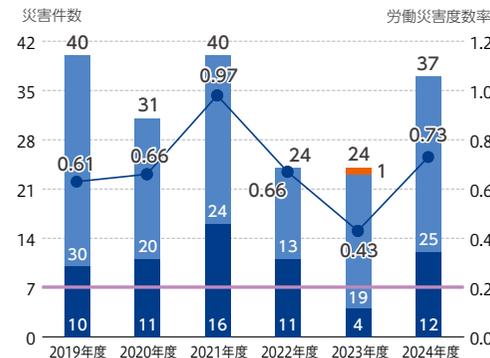
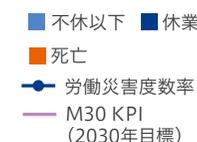


安全最優先

3 | 労働災害度数率の推移(現状の認識)

2024年度の労働災害発生件数は37件と、2023年度より13件増加しました。うち休業災害は12件発生しており、労働災害度数率は0.73に悪化しました。災害の型別分類では、「挟まれ・巻き込まれ」が7件、「転倒・激突され」が6件と多発しており、これらが災害件数増加の主因となります。「挟まれ・巻き込まれ」は、設備の本質安全化だけでは防ぐのが困難な定期修理中の工事作業や非正常作業で発生した案件が多く、労働災害度数率を低減させるには、本質安全化による「安全な設備づくり」と、「安全な人づくり」の両輪の対策が必要となっています。

労働災害発生件数
及び度数率の推移



4 | 安全最優先の取り組み

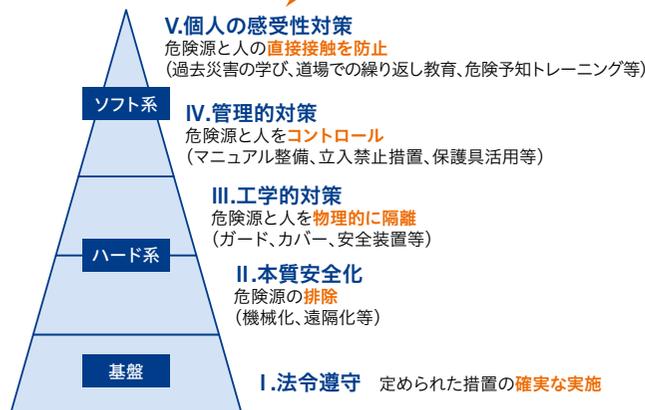
①「安全な人づくり」:

ノンテクニカルスキル向上の取り組み

安全確保には、技術的なスキルを習得するだけでなく、個人の危険感受性向上が重要であることから、ノンテクニカルスキル向上の取り組みを開始しました。昨年度は、各事業所代表者をノンテクニカルスキルのインストラクターとして育成したため、今年度はこれらの方を起点として部署ごとのインストラクターを育成、各部で教育訓練や安全活動を実践し、「安全な人づくり」を推進する計画です。

安全対策の階層

ノンテクニカルスキルを活用

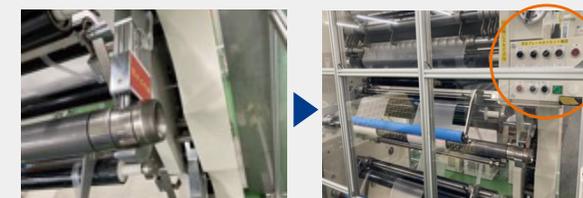


②「安全な設備づくり」:挟まれ・巻き込まれ総点検

設備起因の挟まれ・巻き込まれによる災害をさらに減少させるため、リスクのある作業、設備の点検に注力しています。今回は、職場内だけでなく、新設した事業所の安全管理係/グループ員のメンバーなど様々な視点を入れることで、従来件数の5%に相当するリスクを新たに抽出しました。より安全な環境で業務ができるよう、ハード・ソフト両面の対策を進めています。

改善イメージ

寸動ボタンが安全柵内にあるため、柵外に移設する



5 | 重大災害の教訓に基づく仕組みの確立

①体系的な事業所内巡視

- 全工場の安全管理係/グループが休業災害の減少/未然防止に向けた巡視活動を展開しています。
- 巡視結果および現場要望は安全衛生委員会等で共有され職場環境の改善に活用しています。



②コーポレートからの監査所見に基づく継続的改善

- 各種監査によりグループ会社を含めたコンプライアンスの遵守に努めています。
- 安全管理監査では事故再発防止対策が確実に実行されているか監査を行うとともに、継続的改善に取り組んでいます。

